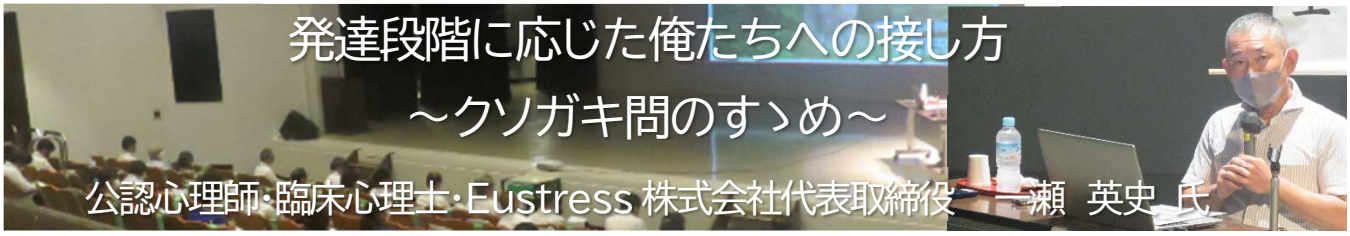
地域教育情報誌　第１５４号　　令和4年9月15日（木）発行

AREA WEB

エリアウェッブ

峡東教育事務所　教育支援スタッフ（地域教育担当）
Tel 0553-20-2731　Fax 0553-20-2733

9月号　掲載内容
- 峡地連「保幼・小・中連携セミナー」
  （Eustress 代表 一瀬英史 氏）
- 峡東地域の教育活動/イベント等の紹介
- 峡東教育事務所からのお知らせ



8月２３日（火）に峡東地域教育推進連絡協議会（峡地連）は、山梨市民会館において「保幼・小・中連携セミナー」を開催しました。以下は講演内容の要旨です。

１　はじめに
・タイトルスライドにはいつも縄文杉を使っている。縄文杉は屋久杉の中では劣等生だったために伐採されなかった。昔は役に立たない存在が、時代が変わると価値があるものへと変化するという喩えは、教育に関わるものとして惹かれる。

２　里山マインド
・「あいだの心」の存在が大切である。
・生活空間には里、深山、その間に里山がある。
・心にも同じような状態がある。（里：現実生活での意識や自我　深山：コントロールできない深い無意識、里山：日常と非日常の間、意識と深い無意識のあいだ）
・最近は山梨県でも深山と里が分断されている状況がみられる。心の中にも同じことが起こっている？

３　子どもの立ち位置から見た多様な経験
・肌身離さず持っていたぬいぐるみやタオルのような存在のことを移行対象というが、母であり母以外の存在であり、どちらともいえないあいだの存在。
・移行期の抑うつ的な体験は、子どもだけでなく、大人の成長にもつながっていく。
・抑うつ体験は、不確かな世界では負の能力（ネガティブ・ケーパビリティー）や答えのない問題に対する能力の成長にも通じる。

４　クソガキ（悪ガキ）の視点から
・遊戯期（3～5歳）の発達課題は「目的を持つこと」で、自主性と罪悪感の両方の体験をすることが必要である。
・これら体験を充分にする中で、自主性が罪悪感より勝れば目的が備わると言われている。
・しかし、子どもとしてみれば自主性でも悪事でもない「あいだの体験（中間領域の体験）」と言える。
・こうした点について、福沢諭凶（ふくざわゆきょう）による「クソガキ問の学問のすすめ」では、犬のうんこ、ピンポンダッシュ、神様は俺だ（福扇自伝より）などのエッセイを使って子どもの側に立った発達体験を捉えてみようと試みた。
・バイトテロといった問題は、体験すべき段階にできる体験をし損ね、発達課題がコンプリートされないまま大人になってしまった者たちによる現象。
・自主的であることは大事だが、悪いことは悪いと叱られて理解することは重要。
・悪事が悪事としてコンプリートするためには、大人がしっかり叱ってやらないと悪事にならない。そして、そうした関わりが本当の意味の「受容」であり、単に子どもの活動を受け入れることが「受容」ではない。

５　幼児期の課題
・自立性と恥と疑義がキーワード
・自立性をコントロールする体験と失敗をとがめられない経験が重要（トイレトレーニングを例示）

６　移行期のテーマをコンプリートする「写し返し」
・写し返しとは、他者が鏡のような存在として、表現したことを受容し、表現を写し直すこと
・嬉しい経験を大人がきちんと写し返すことが大切。
・嫌な体験も口に出したときは、大人がきちんと写し返してあげることで、体験として心の中に収まる。
・キャッチボールに例えると①子どもが投げたボールを捕る（スルーしない）②投げ返す（ズレがあっても構わない。ズレは他者を感じる体験である）
・日常生活では何気ない「対話」の中に多様な体験が含まれている。

７　現代の状況下から、「一緒に見る（やる）」という体験を見直してみたい
・コロナ禍は生活スタイルを変えた。
・現代は、家族で何かを一緒に見るという機会が少なくなってきている。
・一緒に見ることは、自分が見ている体験を相手も同時に体験していると感じられる（写し取っている）機会であり、心身を通した共感性が育つ機会ともいえる。
・あえて一緒にテレビを見たり、ゲームをする機会を作ってみることも良いのではないだろうか。
・特に、一緒に笑う体験を作りたい。嘲笑ではなく、コメディやお笑いを見て楽しく笑う体験。
・ヒトラーにはユーモアがなかったと言われている。そのヒトラーの行為を笑いにしたチャップリン。ウクライナ問題において、プーチン大統領とコメディアンだったゼレンスキー大統領の関係を連想する。
・昔は、家族みんなで「ドリフ」を見て笑いあったものだが、現代は SNS の普及により個々で何かを見て笑っている機会が圧倒的に増えてきている。あえて一緒に見て笑う機会を作るということが必要ではないかと感じている。

今回は会場とオンライン（Teams）をあわせて１42名の方にご参加いただきました。
次回は１１月２４日「人権のための講演会（都留文科大学准教授　冨永貴公 氏）」となります。
※「QR コード」での申し込みとなります。

職業体験講座「花火師のしごと」

山梨市子どもクラブ指導者連絡協議会

玉をうまくあわせるのには「思い切り」が大事です

６月25日に山梨市民会館において、小中学生を対象とした職業体験講座「花火師のしごと」が行われました。近年コロナウイルス感染症の影響で各地の花火大会が中止となっていましたが、今年は再開する大会も多くなってきました。今回は神明の花火で有名な市川三郷町「丸富」から花火師の青山巌さんを講師に迎え、前半は花火の歴史や構造の説明、後半は模擬玉作りと線香花火づくりを体験しました。模擬玉作りで苦戦する子どももいましたが、講師と生涯学習課スタッフが真摯に対応することで最後まで楽しい時間を過ごすことができました。最近ハート型に広がる打ち上げ花火がありますが、どのように火薬を配置しているか分かりますか？実はハート色の火薬を花火玉内にハート型に配置しているそうです。ちなみに線香花火には２種類あり、私たちが慣れ親しんでいるのは「長手牡丹」で、関西では棒状の「スボ手牡丹」がメジャーとのことでした。

横から見ると一本の線になってしまうそうです

「命の大切さを学ぶ授業」～息子を思う母の悲しみ～

甲州市立松里中学校・山梨県警察本部警務課犯罪被害者支援室

・（公社）被害者支援センターやまなし

親が子を思う気持ちを伝える岩嵜さん

「あの時に声をかけていれば・・・」最愛の息子である元紀さんを悪質な飲酒運転による交通事故で失った岩嵜悦子さんの涙ながらの言葉です。悲しみを抑えきれないこの言葉は、会場にいた生徒・教員の胸に深く突き刺さりました。７月21日に甲州市松里中において「命の大切さを学ぶ授業」が行われました。今回はコロナと熱中症への対応のため、３年生は会場での参加、１・２年生は教室でのリモート形式の参加となりました。

県警察本部警務課犯罪被害者支援室では2010年から県内の中・高生を対象に、事故や犯罪で子供を亡くされた遺族による講演会等を開催し、これまでに約３万５千人が参加しています。被害者が受けた「痛み」、生命の大切さへの「理解」を深めることで、将来の社会を担うべき生徒たちに犯罪被害者に対する配慮・協力への意識を涵養させ、同時に罪を犯してはならないという規範意識の向上も図っています。

１・２年生はライブ配信で参加しました

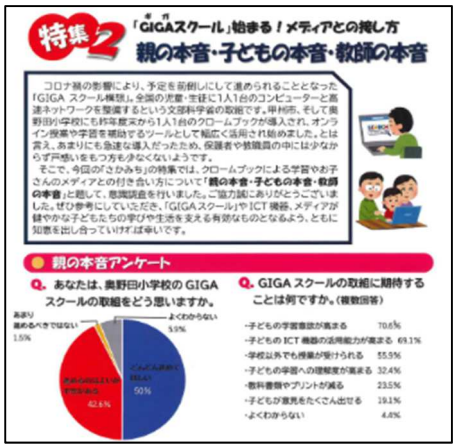
講師の岩嵜さんからは、日常が突然断ち切られた悲しみや怒り、そして代えがたい存在であった元紀さんへの思いが語られました。時がたっても悲しみが癒えることはありません。しかし、「二度と悲劇を繰り返してほしくない」という思いを伝えるため、岩嵜さんは東京都から来県してくださいました。以下は生徒の感想からの抜粋です。『・・私たちが普段している何気ない会話や行動。家族や友達に会ったり、笑ったり、ときに言い合ったりできる幸せ。それが今の自分にあることは素晴らしいことであると感じました。私たちは今どれだけ多くの人から、どれだけ多くの愛を注いでもらっているのかを考えると感謝しかありません・・』生徒の心に大切なものを残してくれた夏休み前の貴重な時間となりました。

県PTA広報誌コンクールで「最優秀賞」を受賞

甲州市立奥野田小学校

奥野田小学校では毎年冊子形式のPTA広報誌「さかみち」を作成しています。校長室に残る資料で確認したところ、昭和50年度の手書きの広報誌から始まって、それぞれの時代のニーズに合わせた内容が数多く掲載されています。作成はPTAが中心となって行われ、最近は3月の卒業式にあわせて発行されています。

県PTA協議会による県PTA広報誌コンクール審査において、奥野田小の「さかみち」が見事最優秀賞に選ばれました。審査で高く評価された点は、GIGAスクール構想に向けて、ICT機器やメディアとの向き合い方を特集した「親の本音・子どもの本音・教師の本音」です。現在広報誌の全国審査に進んでおり、どのような評価を得られるかが非常に楽しみです。時代の急速な変化に対応するために、新たなツールを取り入れながら教育力を向上させていく取組が今後も行われていきます。



「本音」が載った特集が高く評価されました

安全・安心なインターネット利用を考えよう！

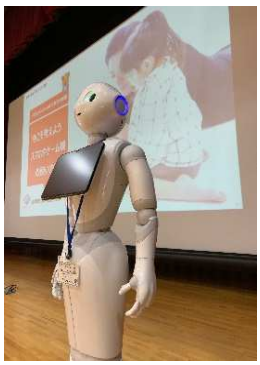
笛吹市立一宮西小学校・山梨県教育委員会生涯学習課

児童は元気に反応します

山梨県教育委員会生涯学習課では安全・安心なインターネット利用を図るため、令和３年度から「ほっと！ネットセミナー」を開催しています。このセミナーの特徴は、低年齢層（２～１２歳）の保護者や小学校高学年の児童を対象とするともに、県警や携帯電話事業者とも連携して実施している点です。６月１７日に一宮西小学校の４・５・６年生１４９名と保護者・教員を対象に同セミナーが行われました。この日の講師は、生涯学習課の職員と（株）フォネットの社員、さらにソフトバンク（株）よりペッパーくんも参加してくれました。 ネットの有用性やネット依存の怖さについて具体例をあげることで、児童の理解度が高いセミナーとなりました。また、講師からの問いかけに対して、児童が積極的に答える場面が多くありました。

内閣府の調査によると、小学生のインターネット利用時間は年々増加しており、コロナ禍である令和３年度には平均で約３．５時間（２０７分）に急増しています。また、平日３時間以上利用している小学生は２人に１人（５１．９%）となっています。インターネットを利用する機器は、小学生は①ゲーム機　②GIGA端末　③自宅PC・タブレット、中学生は①スマホ　②ゲーム機　③テレビ　です。

令和３年度からはGIGA端末の持ち帰りも始まり、インターネットはより身近な存在となっています。子どもの自主性を尊重することも大切ですが、ときに大人も交えて適切な利用に関して「真剣に向き合う」必要があることを感じたセミナーとなりました。



ペッパーくんも参加

祝！世界農業遺産（GIAHS）に認定！

７月１８日に山梨県と峡東３市でつくる峡東地域世界農業遺産推進協議会がFAOに認定を申請していた「峡東地域の扇状地に適応した農業システム」が世界農業遺産に認定されました。小規模な家族農業が丹念に作り上げた優れた栽培技術を通して、狭い地域で収益性の高い農業経営を実現し、暮らしを豊かにしてきた峡東地域はユニークかつ傑出した世界的にも重要な農業システムであるとのことです。地域が長年にわたり大切に育んできた農業システムと美しい景観を今後も受け継いでいかなければなりません。

扇状地に適応した農業システム

JR 東日本による「マナー教室」

きらきら保育園・JR 東日本大月営業統括センター

紙芝居を使ったクイズ形式のマナー教室

手作り券売機での模擬体験

踏切非常ボタンを押してみよう！

７月６日に山梨市のきらきら保育園において、JR 東日本大月営業統括センター主催で電車に関する「マナー教室」が行われました。内容は駅員・乗務員・メンテナンス部門の社員の仕事紹介、紙芝居によるマナー教室、券売機模擬体験、踏切非常ボタン体験など盛りだくさんでした。また、個性あふれる駅員・乗務員・メンテナンス部門の社員のパフォーマンスや手作りの券売機など、子どもの集中力を切らさない工夫が随所にみられました。保育園の近くには東山梨駅や踏切があるなど電車は園児にとって身近な存在であるため、幼少期から電車に対する「安全意識」を高めておくことは重要です。園児たちは楽しみながらマナー教室に参加していました。最後に JR 東日本社員からのプレゼント贈呈と写真撮影が行われ、和やかな雰囲気の１時間半となりました。

力と力のぶつかり合い　～清流杯争奪わんぱく相撲大会～

笛吹青年会議所・ふえふき文化スポーツ振興財団

小中学生 40 名が参加しました

力と力がぶつかり合います

６月 19 日に笛吹市清流公園相撲場において、「第 30 回清流杯争奪わんぱく相撲大会」が行われました。笛吹青年会議所とふえふき文化スポーツ振興財団が主催し、笛吹市内の小中学生 40 名が参加しました。本年度から県内の相撲人口を増やすために、初めて中学の部が実施されました。団体の部と男女別の個人の部において、白熱した熱戦が繰り広げられました。小学校４～６年の優勝者は 10 月に東京の両国国技館で行われる「わんぱく相撲全国大会」に出場する予定です。大相撲と同じ土俵の上で、各学年でトーナメント形式の取組が行われます。地方大会からの参加者はなんと約 40000 人。まさに日本中の小学生力士の晴れ舞台での活躍が期待されます。

やまなしし子どもフェスティバル

山梨市役所子育て支援課

元気な子ども達の活動が展示されています

「何を作るか」が悩みどころ

８月６・７日に山梨市民会館において「第２３回やまなしし子どもフェスティバル」が行われました。コロナ禍のため、例年よりも規模を縮小した形での開催となりましたが、当日は多くの親子連れが会場の山梨市民会館に集まりました。

市内の幼稚園・保育園・認定こども園などの活動をまとめた色鮮やかな展示、木工体験・フォトカレンダーづくり・オリジナル団扇づくり・ベビーダンス教室などの体験型イベント、看護師による健康相談会、健康測定コーナー、映画上映会など多様な企画が準備されていました。一心不乱に作品を作る子ども達を見守る大人の優しいまなざしはいつの時代も変わりません。そんな優しさを気づかせてくれる夏のひとときとなりました。

山廬（さんろ）で七夕の飾り付け

笛吹市立境川小学校・山廬文化振興会

五七五になるように頭をフル回転！

山廬（さんろ）とは俳人 飯田蛇笏 氏の別号であるとともに、笛吹市境川町にある蛇笏氏・龍太氏の居宅及び敷地の総称です。山廬という呼称は蛇笏氏が「山の粗末な建物」と自らの居宅を表現した創作であるとのことです。

７月５日に山廬文化振興会は境川小学校の４年生を招き、七夕の飾り付けを行いました。児童約３０名は飯田秀實理事長に案内され、山廬にある竹林に向かいました。山廬には孟宗竹と真竹の竹林がありますが、細身の孟宗竹２本を伐ってみんなで前庭まで運びました。その後に願い事を五七五でつくって、短冊に自作の俳句をしたためて竹に結びました。願いは人それぞれですが、偉大な先輩達の思いを繋ぐ立派な句ができたのではないでしょうか。

当日はテレビの取材もありました

超低温の世界を体験してみよう！

NPO 法人すてっぷ・あっぷる

液体窒素が気化して煙がモクモク

地域子育て支援センターあっぷっぷでは「すてっぷ・あっぷる★夏休みスペシャル企画」として「ポスター教室」「作文・感想文書き方講座」「英語で遊ぼ！」「おもしろ科学実験」など、多くのイベントを企画しています。８月９日には元高校の化学教師で薬剤師の佐藤浩美さんを講師に迎えて「ふしぎふしぎ超低温の世界」をテーマに液体窒素を使った科学実験が行われました。当日は補助員として山梨高校の生徒３名と大学生２名も参加しました。最初に窒素について簡単なレクチャーがあり、子ども達に液体窒素についてイメージをさせてから実験に入りました。実験中には講師から「何でかな？」「どうしてこうなるのかな？」という問いかけがあり、子ども達は自分なりの考えを一生懸命に答えていました。科学の発展は、目の前の現象に疑問をもつことから始まります。猛暑の夏に超低温のふしぎを体験することで、子どもたちの学びが深まった半日となりました。

凍ったバナナで釘が打てるかな？

「積小為大」（小さな事を積み重ねて大きな事を成す）の精神

山梨市教育委員会

次世代を担う人材達です

８月27・28日に山梨市民会館ホールにおいて「映画『二宮金次郎』上映会」が行われ、194名の方が鑑賞しました。二宮金次郎は従来の封建社会の枠組みを覆すような独特のやり方によって、荒廃した村々を次々と復興させた人物です。その数はなんと600以上と言われています。映画『二宮金次郎』では、貧しさと必死に戦う少年金次郎の姿を交えながら、青年時代に復興へ尽力する二宮尊徳の激動の生涯が描かれました。初日の高木市長の挨拶の中では市長自身が幼少時に口ずさんだ「二宮金次郎の歌」も披露され、和やかな雰囲気での上映会となりました。

図書館内には特設コーナーを設置

生涯学び続けるために必要なこと

山梨ことぶき勧学院（令和３年度から峡東教室は甲府教室での実施）

クメール語の自己紹介。読めます？

山梨ことぶき勧学院では、コロナウイルス感染症への十分な感染防止対策をとった上で講座を実施しています。講座は休憩時間を含めて約２時間半で、内容は歴史・科学・防災・健康など多岐にわたります。生徒の学習意欲は非常に高く、ときに講師が返答に窮するようなハイレベルな質問も飛び出します。多くのキャリアを積んだ方々が「新たな学び」を真摯に吸収しようとする姿には感動さえ覚えます。コロナウイルス感染症の影響で、講座以外の行事や活動にはまだ制限がかかる場合もありますが、仲間との交流や討議などを通じて新たな関係性が形成されています。８月30日には２年生を対象に国際ボランティアで活躍された久保弘恵先生による講座『時代とともに②国際交流等』が開かれました。夢を追い続けるためには「行動することが大切である」ことが熱く語られ、講座を聴く生徒の顔に「まだまだ、できることはあるぞ」という気概が生まれていたのが印象的でした。

JAICA のシニアボランティアとして
ネパールに２年間派遣されました

峡東教育事務所からのお知らせ

７月７日（木）に行われた『子育て講演会（保坂三雄先生）』の講演録を配布いたしました。ご参加いただいた方々から様々なご意見、ご感想をいただき感謝申し上げます。今後もより充実した講演会となるように努力していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

次回の講演会は、甲州市教育委員会との共催で『人権のための講演会』となります。
１１月２４日（木）の午後３時から甲州市民文化会館に都留文科大学准教授 冨永 貴公 氏をお招きして『人権・地域・教育の課題としてのSDGｓ～ジェンダー平等を中心に～』をテーマに講演会を行います。
今回も ７ 月の子育て講演会、８ 月の保幼・小・中連携セミナーと同様に、会場とオンライン（MicrosoftTeams）の併用による「ハイブリッド形式」で実施します。

申し込み用 QRコード

【注意】人権のための講演会は**【QRコードでの個人申し込み】**となります。
※今まで各所属にお願いしていました「集計表の提出」はありません。

ご不明な点は教育支援（地域教育スタッフ　渡辺・藤森）まで
メール：fujimori-fcru@pref.yamanashi.lg.jp　電話：0553-20-2731

ＰＤＦ版をご覧ください

『エリアウェッブ』はPDFカラー版を峡東教育事務所のホームページに掲載中です。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、ホームページを開けます。是非ご覧ください。

エリアウェッブ
ホームページ

ホームページアドレス
https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiiki/backnumber.html

ご意見をお寄せください

『エリアウェッブ』のご意見・ご感想・取材情報をスタッフ一同お待ちしています。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、メールでご連絡いただくか、表紙上部の連絡先にご連絡ください。

お問い合わせ

E-mail アドレス
kyoiku-hym@pref.yamanashi.lg.jp